

鳥取県の「有害図書指定理由」に関して

● 「有害図書指定理由」の送付経緯

2022年9月8日、「有害図書指定理由」という文書（以下「本書面」）が、鳥取県の子育て王国課の担当者より、唐突に私宛にメールで送付されてきました。今回、有害図書に指定された3冊の、それぞれの指定箇所と理由が記載されているものです。

本書面は、そもそも全ての有害図書指定について、「議事録」として一般に公開されるべきものです。有害図書指定のプロセスなどについて大きく騒がれ「たくさん抗議がきたから」と、後出しジャンケン的に出してくるこのような対応自体にも問題があるといえるでしょう。また、同日、県側は地元マスコミを集め指定理由についての説明会を実施したのですが、弊社には県側から事前の通知、事後の報告は一切ありませんでした。

令和4年5月31日付公文書開示決定通知書により開示されたのは、鳥取県青少年問題協議会有害図書類指定審査部会の「会議概要」の写しのみであり、「審査の実施」として「閲覧による図書類の内容確認」としか記載されておらず、同通知書の備考欄によれば「鳥取県青少年問題協議会有害図書類指定審査部会では、委員が図書類を閲覧し、全体の内容から審査を行っており、審査理由等について、委員の個別の発言は行われていない状況です。このため、会議の議事を記録したものとして存在する公文書は、会議概要のみとなります。」とも記載されております。そして、弊社の質問状に対する回答書によれば、有害図書類指定審査部会運営要綱には、具体的な審査方法として「指定すべきか否かを記名により投票する。」と規定されており、その規定通りの運用がされていると説明されています。

これらの説明に基づけば、今回の指定にあたっては、委員が図書を閲覧し、個別の発言をすることなく、投票によって指定すべきと判断されたことになり、そうであれば、本書面に記載されている指定理由についての議論はなされなかったと考えるしかありません。即ち、本書面に記載されている指定理由は、「後付け」によるものにほかなりません。

● 「有害図書指定理由」の問題点とその理由

指定の内容に関しても言いがかりのようなものであり、基本的人権である「表現の自由」への大きな侵害であると同時に、「青少年への悪影響」などという都合の良い言葉を盾として使い、公権力を濫用していると判断するに十分すぎる内容でした。

彼らは自分たちが運用している鳥取県の条例施行規則さえ、きちんと理解していないことが明確になったといえます。条例の枠組みを越えて、曖昧で主観的な「雰囲気」で指定していることを自白しているようなものです。

以下がその根拠と理由です。

鳥取県は、鳥取県青少年健全育成条例施行規則第8条の規定を根拠として、当該図書の表現の“一部”を理由として、有害な図書類にあたるとしています。

しかし、今回慌てて出してきた本書面で鳥取県側が示しているのは、規則 8 条各号への該当理由にすぎません。

例えば「殺人、強盗、傷害、暴行その他の反社会的行為の準備又は実行行為の手段又は経過を詳細かつ著しく刺激的に表現しているもの」という規定が多用されています。

この規定には、「全体的な内容が生命の尊厳を損なうような表現により殺人、暴力等を興味本位に取り扱うことを主眼としていると認められるもの」という重要な前提があります。各号への該当性のみならず、この前提が認められなければ、指定基準には該当しません。

今回の指定内容を拝見する限り、この前提に対する言及は一切ありません。鳥取県はこの前提を完全に無視していることが明白です。

そもそも、今回、鳥取県で有害図書に指定された書籍は、科学と工学、医学に興味を持ってもらうということに主眼を置いて書かれた書籍であり、「全体的な内容が生命の尊厳を損なうような表現により殺人、暴力等を興味本位に取り扱うことを主眼としている」というものではありません。

鳥取県が示した指定理由は、自ら示した基準が守られていないだけでなく、明らかに基準外の箇所まで挙げることで、書籍の内容を無理やり“有害”に見せようとしています。この点も非常に悪質で問題でしょう。

個別の指定内容に関しても、根拠に乏しいものばかりです。

●弊社の今後の対応など

弊社としましては、今後、多くの方々に鳥取県のこのような発表が歪曲して伝わり、誤解を広めないようにするため、丁寧な説明が必要であると考えています。ラジオライフ誌面では引き続き、この問題を取り上げていく所存です。

最後に誤解の無いように再度申し上げますと、今回、鳥取県で有害図書に指定された書籍は、科学と工学、医学に興味を持ってもらうということに主眼を置いて書かれた書籍であります。三オブックスならびに、アリエナイ理科シリーズでは、次代を担う若い人に正しい科学知識や医学情報、並びに最先端技術に興味を持ってもらうため、多様なトピックを分かりやすくまとめて書籍としています。その上で多くの表現におけるガイドラインとなる「明白かつ現在の危機」に関しては、極めて慎重に内容作りをしており、一切の文脈を無視して「〇〇が載っているから危険」などと短絡的かつ雰囲気、一方的に「有害」と決めつけられることに強い憤りと恐怖を感じます。

2022 年 9 月 16 日

三オブックス

ラジオライフ編集長 小野浩章